

## NEWS RELEASE

平成 19 年 5 月 17 日

## 電通シニアプロジェクト「退職後のリアル・ライフⅢ～団塊世代の願望調査」

## 団塊世代が考える「本格リタイア時期」と6つの「したい生活像」

改正高齢法に基づく高齢者雇用確保措置の導入によって60才定年後も「会社で働き続ける」という選択肢が生まれた結果、定年後の60代前半も引き続き働くことを選択する人が多くなることは確実で、「定年＝リタイアライフのスタート」の常識は崩れつつあります。

また、とかく一括りにされる団塊世代ですが、約680万人(1947～49年生まれ)もいる彼らには、当然ながら様々な顔が存在し、「団塊世代」と一括りにされることに違和感を覚える人もいます。

そこで今回、株式会社 電通 電通シニアプロジェクトでは首都圏の団塊世代666人に対して、60代後半に焦点を当てた緊急アンケート調査で「したい生活像」や「実現見通し」を尋ね、60代後半から始まる団塊世代の「真のリタイアライフ」を探りました。(調査実施詳細は資料巻末)

また、“アクティブ”など一括りにされやすい団塊世代ですが、60代後半の生活志向性の違いから「6つのシニアライフスタイル・グループ～全方位アグレッシブ派・にぎやか生活派・海外志向派・社会貢献派・スローライフ派・面倒回避派～」が存在することを発見しました。

## ■ 調査結果のポイント

## 1.65歳前後が本格リタイアライフの実質的スタート

- ・ 昨年実施した「退職後のリアル・ライフⅡ」では、60代前半には77%が働くことを選択し、そのうちの47%はフルタイムを希望。ところが、今回の調査で判明した60代後半の働き方では、「フルタイムで働く」は7%に留まる。今年から定年を迎えた団塊世代だが、本格リタイアライフのスタートは実質的に65才前後にズレ込むことになりそうだ。
- ・ 団塊世代が60代後半にしたい生活は「私生活の充実」が基本で、「仕事をしていること」を望む人は3割以下。「のんびり&シンプル」「夫婦・家族の時間」「エンジョイ旅行&お出かけ」ライフが主流。

## 60代後半の「したい生活像」

したい生活像	そうありたい(%)	したい生活像	そうありたい(%)	したい生活像	そうありたい(%)
健康を維持	93.7	いろいろな趣味を楽しむ	77.2	勉強・学習に取り組む	55.7
旅行を楽しむ	93.4	一人の時間を楽しむ	74.6	料理・家事を楽しむ	54.6
のんびり過ごす	92.5	特定の趣味に取り組む	70.7	子どもとの時間を楽しむ	54.2
経済的に豊かな生活	90.1	都会の生活を楽しむ	68.5	恋愛を楽しむ	52.9
シンプルな生活	89.6	人間関係を広げる	67.4	田舎と都会を行き来する	45.8
おでかけを楽しむ	87.5	新しいことに挑戦する	66.9	コレクションを楽しむ	43.7
夫婦の時間を楽しむ	87.1	できなかったことに挑戦する	62.6	田舎暮らし	40.6
家族との時間を楽しむ	85.0	孫との時間を楽しむ	62.0	海外ロングステイ	33.0
自由気ままな生活	84.1	おしゃれを楽しむ	60.8	今の職場で働く	29.2
仕事以外のやりがいに打ち込む	82.7	社会貢献活動	59.2	新しい職場で働く	25.3
今と変わらない生活	80.4	スポーツを楽しむ	57.6	海外移住	18.7
友人との時間を楽しむ	77.5	人に役立つことをする	57.1	起業	18.1

## 2. 願望と実現見通しにギャップ。60代前半のリタイアモラトリアム期は、ギャップからビジネスチャンス生まれる

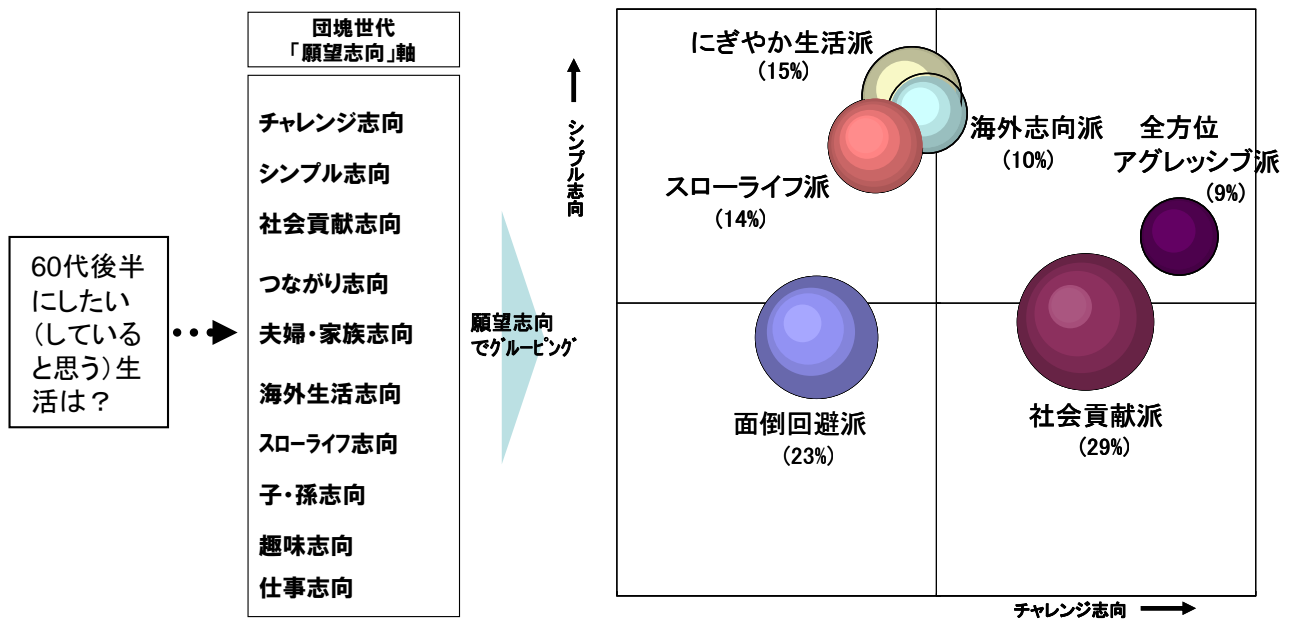
- ・60代後半のしたい生活とその実現見通しでは、「経済的に豊かな暮らし」（願望；90%→実現見通し；うち39%）、「自由きままな生活」（願望；80%→実現見通し；うち55%）、「仕事以外のやりがいに打ち込む」（願望；83%→実現見通し；うち60%）などに大きなギャップが見られ、60代前半のリタイアモラトリアム期には、これらのギャップからビジネスチャンスが生まれていくだろう。
- ・また「暮らす場所」に関しては、実現見通しが総じて低い。「田舎に暮らしたい」（願望；40%→実現見通し；うち39%）、「海外に移住したい」（願望；19%→実現見通し；うち23%）など。
- ・実現の阻害要因は主に「経済力、気力、健康、時間、配偶者などの都合」だが、願望の中身によって違いが。以下に、主な願望ごとに第一位の阻害要因を挙げると・・・

したい生活	主な阻害要因	したい生活	主な阻害
経済的に豊かな暮らし	経済力	自由気ままな生活	配偶者
新しいことに挑戦する	気力	いろいろな趣味を楽しむ	気力&経済力
田舎暮らし	配偶者&経済力	海外移住	経済力

## 3. 60代後半の「したい生活像」から、団塊世代は6つのグループに

- ・団塊世代の願望を分解すると、「チャレンジ志向」「シンプル志向」「社会貢献志向」など10の軸に整理され、それに基づいて6つのシニアライフスタイル・グループが抽出された。
- ・この10軸に、逆位相に相当する「面倒回避・安心志向」を加えた合計11の願望志向軸こそ、団塊世代向け商品設計の基本要素と言えよう。

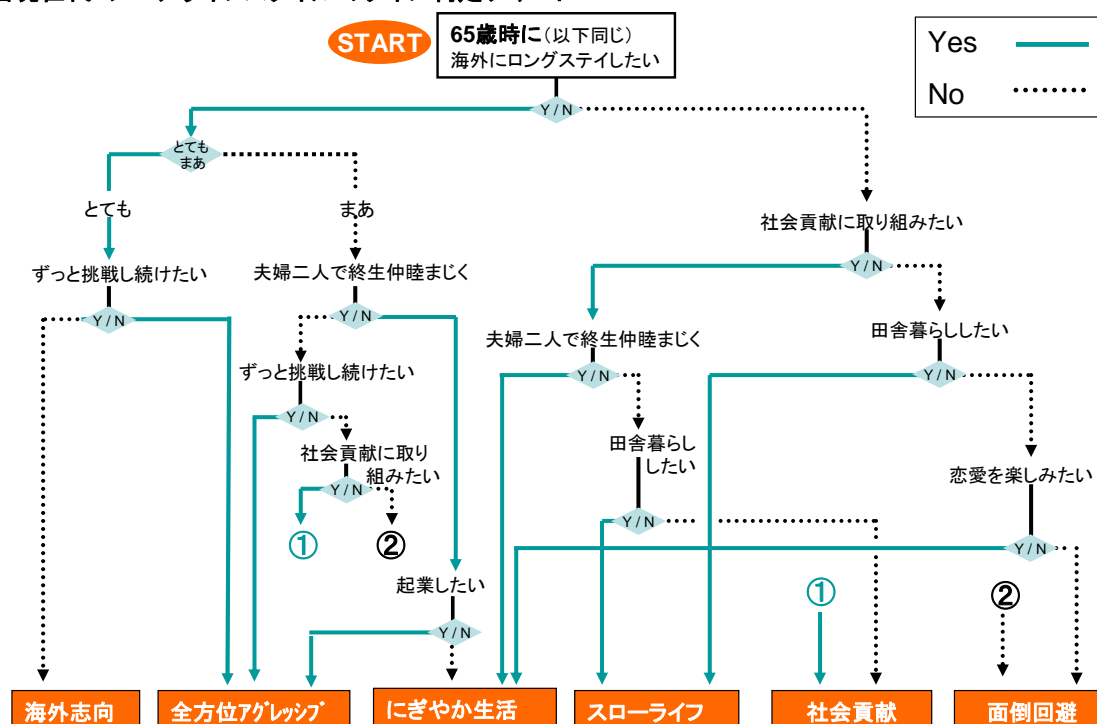
団塊世代シニアライフスタイル・グループのポジション



- ① **全方位アグレッシブ派 (9%)**; 色々なことにチャレンジし、積極的に自己実現をしていきたい  
男性 59%、女性 41%と、男性が多め。世帯年収 1,060 万円、貯蓄 1,850 万円。富裕度○
- ② **にぎやか生活派 (15%)**; 夫婦、家族、友人などとの人間関係豊かな生活を送りたい  
男性 39%、女性 61%と、女性が多め。世帯年収 1,050 万円、貯蓄 2,270 万円。富裕度◎

- ③ **海外志向派**(10%) ; 海外ロングステイや移住などで、できるだけ海外暮らしをしたい  
男性 32%、女性 68%と、最も女性が多い。世帯年収 1,020 万円、貯蓄 2,170 万円。富裕度◎
- ④ **社会貢献派**(29% : 最大グループ) ; 人や社会、地域のために役にたつことをしていきたい  
男性 52%、女性 48%。男女ほぼ半々。世帯年収 940 万円、貯蓄 1,690 万円。富裕度△
- ⑤ **スローライフ派**(14%) ; シンプルな生活を心がけ、自然や田舎に親しむ暮らしをしたい  
男性 50%、女性 50%と男女半々。世帯年収 880 万円。貯蓄 1,230 万円。富裕度×
- ⑥ **面倒回避派**(23% : 2 番目に多いグループ) ; チャレンジや変化を避け、無難に暮らしていきたい  
男性 59%、女性 41%と、男性が多め。世帯年収 930 万円、貯蓄 1,770 万円。富裕度△

参考: 団塊世代・シニアライフスタイルのタイプ判定チャート



・ 調査概要 ; 団塊世代の願望クラスター調査

時 期 : 2007 年 2 月

対象者 : 1. 団塊世代 (1947~51 年生まれ) の既婚男性会社員・公務員 334 名  
 2. 上記男性を夫に持つ 1947~56 年生まれの既婚女性 332 名 (男女合計 666 名)

調査方法 : インターネット調査

調査地域 : 1 都 3 県

調査実施機関 : 株式会社 ビデオリサーチ

・ 電通シニアプロジェクト ;

日本の人口高齢化をふまえアクティブなシニア市場開発を目的にした、約 50 名からなる全社横断プロジェクトで 2001 年 2 月にスタート。調査研究、マーケティングコンサル、広告企画、商品開発・事業開発などを手がける。

<このリリースに関するお問い合わせ>

株式会社 電通 電通シニアプロジェクト

消費者研究センター 消費者研究室 花島、四元 (Tel 03-6216-8458)

プロジェクト・プロデュース局 シニアプロジェクト部 荒木、佐藤 (03-6216-8048)